

工事成績採点の審査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

(共通・主任監督員用)

審査項目	細 別	a	b	c	d	e							
2. 施工状況	. 工程管理	優れている。		やや優れている。	他の事項に該当しない。	やや劣っている。	劣っている。						
		該当	<p>「評価対象項目」</p> <p>気象条件や施工条件などにより特に工期的な制約がある場合において、余裕をもって工事を完成させた。</p> <p>隣接する他の工事などとの工程調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。</p> <p>地元及び関係機関との調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。</p> <p>工程管理を適切に行ったことにより、休日の確保や夜間工事の回避等を行い、地域住民の生活サカへの配慮がみられた。</p> <p>工程管理に係る積極的な取組が見られた。</p> <p>工事施工箇所が広範囲に点在している場合において、工程管理を的確に行い、余裕をもって工事を完成させた。</p> <p>その他(理由:)</p>			該当	<p>自主的な工程管理がなされず、工事監督員から文書による改善指示を行った。</p>		該当	<p>請負人の起因により工期限内に工事を完成させなかった。(ただし、工事監督員からの改善指示による場合を除く)</p>			
		該当数											
		評 価	該当5項目以上...a、3項目以上...b、その他は...cとする。										
		点 数											
		審査項目	細 別	a	b	c	d	e					
		2. 施工状況	. 安全対策	優れている。		やや優れている。	他の事項に該当しない。	やや劣っている。	劣っている。				
				該当	<p>建設労働災害及び公衆災害の防止へ向けた取組が顕著である。</p> <p>安全衛生を確保するための管理体制を整備し、組織的に取り組んだ。</p> <p>安全協議会での活動に積極的に取り組んだ。</p> <p>安全衛生を確保するため、他の模範となるような活動に積極的に取り組んだ。</p> <p>安全対策に係る取組が工事関係者以外(周辺住民、共用部分使用者、警察署等)から評価された。</p> <p>その他(理由:)</p>			該当	<p>自主的な安全対策がなされず、工事監督員から文書による改善指示を行った。</p>		該当	<p>請負者の起因により事故が発生した。</p>	
				該当数									
				評 価	該当4項目以上...a、2項目以上...b、その他は...cとする。								
				点 数									

工事成績採点の考査項目別運用表

(土木・主任又は総括監督員用)

【記入方法】該当する項目に4点を入れる。

考査項目	細 別	対応事項	【事例】具体的な施工条件等への対応事例
4. 工事特性	. 工事特性	構造物の特殊性への対応 1. 対象構造物の高さ、延長、施工（断）面積、施工深度等の規模が特殊な工事。 2. 対象構造物の形状が複雑であることなどから、施工条件が特に変化する工事。 3. その他（理由： ） 上記の対応事項が1つ以上あれば4点の加点とする。	1 / 2 (1. について) ・切土 20万㎡<V ・盛土大 15万㎡<V ・護岸・築堤高 10m<H ・浚渫工 100万㎡<V ・トンネル(シールド) 8m<φ ・樋門・樋管 15㎡<A ・揚排水機場 2000mm< ・堰、水門 最大径間長25m以上、径間数3径間以上又は床体面積 50㎡<A ・トンネル(開削工法) 20m<H ・トンネル(NATM)内空断面積 100㎡<A ・トンネル(沈埋工法) 300㎡<A ・海岸堤防、護岸、突堤、離岸堤 水深10m<H ・地滑り防止工 100m<W 又は150m<L ・流路工 500㎡<Q ・砂防ダム、治山ダム 15m<H ・ダム高 150m<H ・転流トンネル 400㎡<S ・橋梁下部工 高さ30m<H ・橋梁上部工 最大支間長100m<L ・治山山腹工 150m<L ・林道土工 1万㎡<V (2. について) ・砂防工事などにおいて、現地合わせに基づいて再設計が必要な工事。 ・鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事又は河道内の流水部における橋脚の撤去工事。 ・供用中の道路トンネルの拡幅工事。 (3. について) ・その他、構造物の規模、形状以外の難しさへの対応が特に必要な工事。 ・地山強度が低い又は土被りが薄いため、FEM解析等による検討が必要な工事。
		小計 都市部等の作業環境、社会条件等への対応 4. 地盤の変形、近接構造物、地中埋設物への影響に配慮する工事。 5. 周辺環境条件により、作業条件、工程等に大きな影響を受ける工事。 6. 周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事。 7. 現道上での交通規制に大きく影響する工事。 8. 緊急時に対応が特に必要な工事。 9. 施工箇所が広範囲にわたる工事。 10. その他（理由： ） 上記の対応事項が1つ以上あれば4点の加点とする。	都市部等とは、人口集中地区(DID地区)や住宅街をいう。 (4. について) ・供用中の鉄道又は交差する橋梁などの工事。 ・市街地等の家屋密集地での、鉄道又は道路をアンダーパスする跨線橋又は跨道橋工事。 ・監視などの結果に基づき、工法の変更を行った工事。 (5. について) ・ガス管、水道管、電話線等の支障物件の移設について、施工工程の管理に特に注意を要した工事。 ・地元調整や環境対策の制約が特に多い工事。 ・そのほか各種制約があり、施工に特に厳しい制限を受けた工事。 (6. について) ・市街地での夜間工事。 ・市街地等で騒音・振動により住民、家屋等に影響を及ぼす建設機械等を使用した工事。 (7. について) ・供用中の道路(概ね日交通量2万台以上)で片側交互通行の交通規制をした工事。 ・供用中の道路での舗装及び修繕工事等。 ・工事期間中の大半にわたって、既製標識類の設置・撤去を日々行い、交通解放を行った工事。 (8. について) ・緊急時の作業があり、その作業全てに対応した工事。 (9. について) ・作業現場が広範囲に分布している工事。 (10. について) ・施工ヤードの広さや高さ制限があり、機械の使用などの施工制約を受けた工事。 ・その他、周辺環境又は社会条件への対応が特に必要な工事。
		小計	

工事成績採点の審査項目別運用表

(土木・主任又は総括監督員用)

【記入方法】該当する項目に4点を入れる。

審査項目	細 別	対応事項	【事例】具体的な施工条件等への対応事例
		<p>厳しい自然・地盤条件への対応</p> <p>11. 特殊な地盤条件への対応が必要な工事。</p> <p>12. 雨・雪・風・気温等の自然条件の影響が大きな工事。</p> <p>13. 急峻な地盤及び土石流危険渓流内での工事。</p> <p>14. 動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事。</p> <p>15. その他(理由:)</p> <p>上記の対応事項が1つ以上あれば4点の加点とする。</p>	<p>2 / 2</p> <p>(11. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川内の橋脚工事等で、地下水位が高く、ウエルポイント等の排水設備の他、大規模な山留め等が必要な工事。 支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎の1本毎に地質調査を実施する他、支持地盤を確認しながら再設計した工事。 施工不可能日数が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要が生じた工事。 <p>(12. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 海岸又は河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。 潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事。 <p>(13. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 急峻な地形のため、作業構台作業床の設置が制限される工事。又は命綱を使用する必要があった工事。(法面工は除く) 斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事。 <p>(14. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事。 <p>(15. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事。 その他、災害等における臨機の措置のうち特に評価すべき事項が認められる工事。
		<p>小計</p>	
		<p>長期工事における安全確保への対応</p> <p>16. 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事(全面一時中止期間は除く)。</p> <p>17. その他(理由:)</p> <p>上記の対応事項が1つ以上あれば4点の加点とする。</p>	
		<p>小計</p>	
	評点	<p>点</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事特性は、加点評価とする 加点は+1.6点~0点の範囲とする。 	

1. 工事特性は、最大1.6点の加点評価とする。
2. 主任監督員が評価する「5. 創意工夫」との二重評価は行わない。
3. 評価にあたっては、請負業者からの報告及び他の工事監督員の意見も参考に評価する。

工事成績採点の考査項目別運用表

(土木・主任又は総括監督員用)

【記入方法】該当する項目に1点を入れる。

考査項目	細別	工夫事項 1 / 2	
5. 創意工夫	. 創意工夫	施工関係 1 施工に伴う器具・工具・装置等に関する工夫又は設備据付後の試運転調整に関する工夫。 2 コンクリート二次製品等の代替材の利用に関する工夫。 3 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンクリート打設等の施工に関する工夫。 4 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式等を含む施工方法に関する工夫。 5 設備工事における加工や組立等又は電気工事等の配線、配質等に関する工夫。 6 給排水工事や衛生設備工事等における配管又はポンプ類の凍結防止、配管のつなぎ等に関する工夫。 7 照明などの視界の確保に関する工夫。 8 仮排水、仮道路、迂回路等の計画的な施工に関する工夫。 9 運搬車両・施工機械等に関する工夫。 10 支保工、型枠工、足場工、仮棧橋、覆工版、山留め等の仮設工に関する工夫。 11 盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関する工夫。 12 施工計画書の作成、写真の管理等に関する工夫。 13 出来形又は品質の計測、集計、管理図等に関する工夫。 14 施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫。 15 ICT（情報通信技術）を活用した情報化施工を取り入れた工事。 16 特殊な工法や材料を用いた工事。 17 優れた技術力又は能力として評価する技術を用いた工事。 18 その他（理由： ） 上記に該当する場合、5点～0点の範囲で1項目1点の加点とする。	
		小計=	
小計=			品質関係 19 土工、設備、電気の品質向上に関係する工夫。 20 コンクリートの材料、打設、養生に関係する工夫。 21 鉄筋、PCケーブル、コンクリート二次製品等の使用材料に関係する工夫。 22 配筋・溶接作業等に関係する工夫。 23 その他（理由： ） 上記に該当する場合、2点～0点の範囲で1項目1点の加点とする。
			小計=
			小計=
			小計=
			小計=

工事成績採点の考査項目別運用表

(土木・主任又は総括監督員用)

【記入方法】該当する項目に1点を入れる。

考査項目	細別	工夫事項 2 / 2
(最大 9点)	小計=	安全衛生関係
		24 安全を確保するための仮設備等に関する工夫。(落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等)
		25 安全教育、技術向上講習会、安全パトロール等(リスクアセスメントの実施を含む)に関する工夫。
		26 現場事務所、労務者宿舍等の空間及び設備等に関する工夫。
		27 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止並びに作業中の換気等に関する工夫。
		28 一般車両突入時の被害軽減方策又は一般交通の安全確保に関する工夫。
		29 厳しい作業環境の改善に関する工夫。
		30 その他(理由:)
		上記に該当する場合、2点～0点の範囲で1項目1点の加点とする。
		評点=

1. 上記の考査項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体的内容を記載して加点する。評価は「4. 工事特性」及び「6. 社会性等」との二重評価はしない。
2. 詳細評価は、他の工事監督員の意見を聴取し、評価する。評価の際には、評価した理由を整理しておくこと。
3. 評価は請負業者から報告、もしくは提案があったものを検討する。
4. 次に示す事項は、当然実施されるものと判断し評価しない。ただし、さらに工夫を加え効果が確認されれば評価する。
 - (1) 関係諸法令に規定されている事項
 - (2) 関係機関との打合せ及び許可条件等
 - (3) 公共機関や団体が推進している事項
 - (4) 設計図書・施工管理基準等に記載されている事項
 - (5) 設計により発生した事項
 - (6) 一般常識的な事項(社会通念上、一般的と考えられる内容)

工事成績採点の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目に1点を入れる。

(土木・主任又は総括監督員用)

考査項目	細別	社会性等に関する事項	
6. 社会性等	地域への貢献等	<p>該当</p>	<p>「評価対象項目」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ。 2. 保全に関して積極的に取り組んだ。 3. 地域との積極的なコミュニケーションを図った。 4. 地域の草刈、清掃などを積極的に実施した。 5. 災害時等において、地域への支援又は救援活動への積極的な協力を行った。 6. その他(理由: _____)
		<p>評点=</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に評価すべき社会性等に関する事例を加点評価する。 ・加点は+4点～0点の範囲とする。 1項目1点を目安とする。 	

1. 当該工事の施工に携わっている者や当該工事で使用している作業機械で行ったものを対象とする。
2. 金品や物品の寄付行為は対象としない。ただし、災害時での物品の提供は対象とする。
3. 上記の考査項目の他に評価に値する事例があれば、その他に具体的内容を記載して加点する。評価は「5. 創意工夫」との二重評価はしない。
4. 詳細評価は、他の工事監督員の意見を聴取し、評価する。評価の際には、評価した理由を整理しておくこと。
5. 評価は請負業者から報告、もしくは提案があったものを検討する。
6. 社会性等は、工期内に工事箇所及び工事施工に係る範囲で地域への貢献等を行った場合に評価する。
 - ・工場製作のみの工事の場合は、工場周辺の範囲を対象とする。
 - ・現場が複数ある場合は、各々の箇所での取組を評価する。
 - ・複数の工事で合同して行った取組は、各々の工事で評価する。
7. イメージアップの経費を用いた取組は評価しない。

工事成績採点の審査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

(共通・主任又は総括監督員用)

審査項目		法令遵守等の該当項目一覧表			
7.法令遵守等	該当	措置内容	点数	評価	
		1. 指名停止3ヶ月以上	- 20点	1	項目該当なし
		2. 指名停止2ヶ月以上3ヶ月未満	- 15点		
		3. 指名停止1ヶ月以上2ヶ月未満	- 13点		
		4. 指名停止2週間以上1ヶ月未満	- 10点		
		5. 文書注意	- 8点		
		6. 口頭注意	- 5点		
		7. 工事関係者事故または公衆災害が発生したが、ヒューマンエラー等軽微なため、口頭注意以上の処分がなかった場合 (不問で処分した案件。もらい事故や交通事故は含まない。)	- 3点		
評 定 点	<p>本評価項目(7.法令遵守等)で評価する事例は、「工事の施工にあたり、工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があった」場合に適用する。 「工事の施工にあたり」とは、請負契約書の記載内容(工事名、工期、施工場所等)を履行することに限定する。 「工事関係者」とは、を履行する工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、品質証明員、請負会社の現場従事職員及び を履行するために下請契約し、その履行をするために従事する者に限定する。</p> <p>【上記で評価する場合の適応事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1.入札前に提出した調査資料等が虚偽であった事実が判明した。 ・ 2.承諾なしに権利義務等第三者譲渡又は承継を行った。 ・ 3.宿舍環境等の使用人等に関する労働条件に問題があり、送検等された。 ・ 4.産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等、関係法令に違反する事実が判明した。 ・ 5.当該工事関係者が贈収賄等により逮捕又は公訴された。 ・ 6.建設業法に違反する事実が判明した。 EX)一括下請け、技術者の専任違反等 ・ 7.入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検等された。 ・ 8.使用人等の就労に関する労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。 ・ 9.監督又は検査の実施に当たり、職務の執行を妨げた。あるいは不当な政治力等の圧力をかけ、妨害した。 ・ 10.下請代金遅延防止法第4条に規定する下請代金の支払を期日以内に行っていない。あるいは不当に下請代金の額を減じている。あるいはそれに類する行為がある。 ・ 11.過積載等の道路交通法違反により、逮捕又は送検等された。 ・ 12.受注企業の社員に「指定暴力団」あるいは「指定暴力団の傘下組織(団体)」に所属する構成員、準構成員、企業舎弟等、暴力団関係者がいることが判明した。 ・ 13.下請けに暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは暴力団対策法第9条に記されている、砂利、砂、防音シート、軍手等の物品の納入、土木作業員やガードマンの受け入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。 ・ 14.安全管理の処分が不適切であったために、死傷者を生じさせた工事関係者事故又は重大な損害を与えた公衆災害を起こした。 ・ 15.施工体制台帳、施工体系図が不備で、工事監督員から文書等による改善指示を行ったが、これに従わなかった。 ・ 16.その他 <p>理由:</p>				

考查項目別運用表

[記入方法] 減点がない場合は、該当項目なしに1を入れる。ある場合は、措置内容及び減点となる点数について記入する。

(共通・主任又は総括監督員)

考查項目	総合評価履行の該当項目一覧表					
8. その他	総合評価方式において、受注者の責により提案を満足する施工が行われない場合等			点 数	評価	
	地元業者活用報告書により確認される活用率が地元業者活用計画書より下回る場合の減点(減点数-5点とする)					項目該当なし
	【簡易型】(該当する項目に にレマークを記入する)					
	加算点を得た項(A)	履行確認の項目(B)	施工計画における評価対象項目	点 数		
	□	□	施工計画の実施手順の妥当性			
	□	□	工期設定の適切性			
	□	□	工事材料等の品質確認方法及び管理方法の適切性			
	□	□	施工上配慮すべき事項の適切性			
	□	□	その他			
	簡易型減点 = - 5 × (加算点を得た項目(A) - 履行確認の項目(B) ÷ 加算点を得た項目(A))					
	<p>本評価は、施工計画における「技術の評価において評価点を得た項目」の履行状況について行う。</p> <p>減点は、少数点第1位を四捨五入、整数とする。</p>					
	<p style="text-align: right;">減点数合計 (+) </p>					